



〔9月議会での一般質問〕

LGBTQの人も暮らしやすい小平にするために



電通のインターネット調査によると、LGBTQ+に該当する人の割合は回答者の8.9%です。昨年6月に性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律が成立し、自治体も施策の実施が求められるようになりました。

小平市は2022年度から当事者向けの「こだいらにじいろ電話相談」を2ヶ月に1回、LGBTやそうかもしれないと感じている人、アライの人の交流の場「こだにじ ROOM」を年に2回始めました。もっと相談しやすい体制にするため、実施回数や曜日、開催時間を増やすことを求めました。

国立市や武蔵野市では、性自認や性的指向に基づく差別や、本人の意思に反して性自認又は性的指向を第三者に公表するアウトティングを条例で禁止しています。小平市でも同様の取り組みができないか聞きましたが、条例で規定することは考えていないとの答弁でした。

2019年の労働施策総合推進法改正により、職場におけるパワハラ防止措置が事業主の義務となり、2022年から中小企業にも適用拡大されました。パワハラには性的指向や性自認に関する侮辱的言動も含まれます。市での取り組みを尋ねると、3年前の2020年度開催の女性活躍推進セミナーで、ジェンダーハラスメントにLGBTに対するものも含まれることを事業者の説明したという回答のみでした。

LGBTの68%が学校生活でいじめや暴力を経験しているという調査結果もあります。市内の学校では、子どもたちから相談があった場合はサポートチームをつくり、スクールカウンセラーやスクール

かずえの日記



9/17 学習会
「いまなぜ子どもの権利条約なのか？」

早稲田大学名誉教授の喜多明人氏が川崎市での日本初の子ども権利条約制定の経験等を話されました。



9/30 「PFAS問題(水汚染)を巡るPART II
立ちほだかる日米地位協定」

PFAS汚染問題を考える会が主催。150名ぐらいが参加し、PFAS汚染と横田基地、日米地位協定の問題を学びました。



10/8 玉川上水みどりといきもの会議
「木を調べる」

玉川上水のうち、小平328号線道路の予定地となっている部分に生えている木の太さや種類を調べました。



10/21 「新しい選挙のしくみを！
初めての経験した、おかしな選挙制度」

選挙改革フォーラム主催。日本の選挙でおかしな点をてらだはるか杉並区議、鈴木ちひろ国分寺市議と共にお話しました。



ソーシャルワーカーも交えて支援について検討しているとのことでした。また昨年、市内の小中学校7校では当事者を講師に招き、教員や子ども向けに研修や授業を実施しました。このような取り組みは人権教育としてぜひ広げてほしいと思います。

東京都は2022年11月にパートナーシップ宣誓制度を始めましたが、その後も日野市や調布市、町田市などでパートナーシップ制度を導入しています。同性のパートナーを公的に認める制度が居住市で始まれば、当事者は安心感を得ることができます。小平市での導入も「研究」に留めず、前向きに進めるよう要望しました。